

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
甲府市	南部平坦地域 (小瀬町)	令和4年3月31日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	8.8ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	8.4ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	0.6ha
うち後継者が居ない農業者の耕作面積の合計	0.6ha
④地区内において今後耕作できなくなる可能性のある耕作面積の合計	0.3ha
⑤地区内において今後中心経営体等が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.8ha
(備考)	

2 対象地区の課題

(1) 現在、農地の受け手は確保できているが、今後、更に農業者の高齢化による離農や経営規模の縮小が進むことで、農地の受け手不足となり、耕作放棄地が増加する可能性がある。
(2) 宅地化が進み、農地に限りがあることから、面的な農地集積が困難な場所がある。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化及び今後の方針

(1) 今後、農地の受け手が不足する可能性を考慮し、地域内に限らず、地域外からも新規就農者等呼び込み、農地の受け手を確保していく。
(2) 新規就農者の育成やサポートを地域一体となってい、今後の地域農業を担っていく中心経営体となるような人材の育成を図っていく。
(3) 付加価値の高い作物や品種の導入を検討し、収益性の向上を図る。
(4) 宅地化が進み、面的な農地の確保が困難な場所もあるが、農業委員や農地利用最適化推進委員と連携し、地域で農地情報を共有することで、農地の出し手と受け手を明確化しながら、農地銀行制度や農地中間管理機構を活用することで、農地の集積を促進する。

今後の地域の中心となる経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向	
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積
認農	農業者A	野菜	0.3 ha	野菜	0.3 ha
認農	農業者B	野菜、水稻	0.5 ha	野菜、水稻	0.5 ha
認農	農業者C	野菜、水稻	1.3 ha	野菜、水稻	1.5 ha
認農	農業者D	野菜、水稻	0.7 ha	野菜、水稻	1.2 ha
認農	農業者E	野菜、水稻、花卉	0.9 ha	野菜、水稻、花卉	0.9 ha
認農	農業者F	野菜、水稻	0.09 ha	野菜、水稻	0.09 ha
認農	農業者G	野菜、水稻	1 ha	野菜、水稻	1.1 ha
認農	農業者H	果樹、野菜	0.4 ha	果樹、野菜	1.4 ha
認農	農業者I	野菜、水稻	1 ha	野菜、水稻	1 ha
新認	農業者J	野菜	0 ha	野菜	1 ha
合計	10人		6.19 ha		8.99 ha